

ANAホールディングス株式会社 説明会

2025年3月期 第1四半期決算

2024年7月30日

取締役 常務執行役員
グループCFO

中堀 公博



- ① 本日は、2025年3月期 第1四半期の決算説明会にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。
- ② 最初に、スライドの3ページをご覧ください。

目次

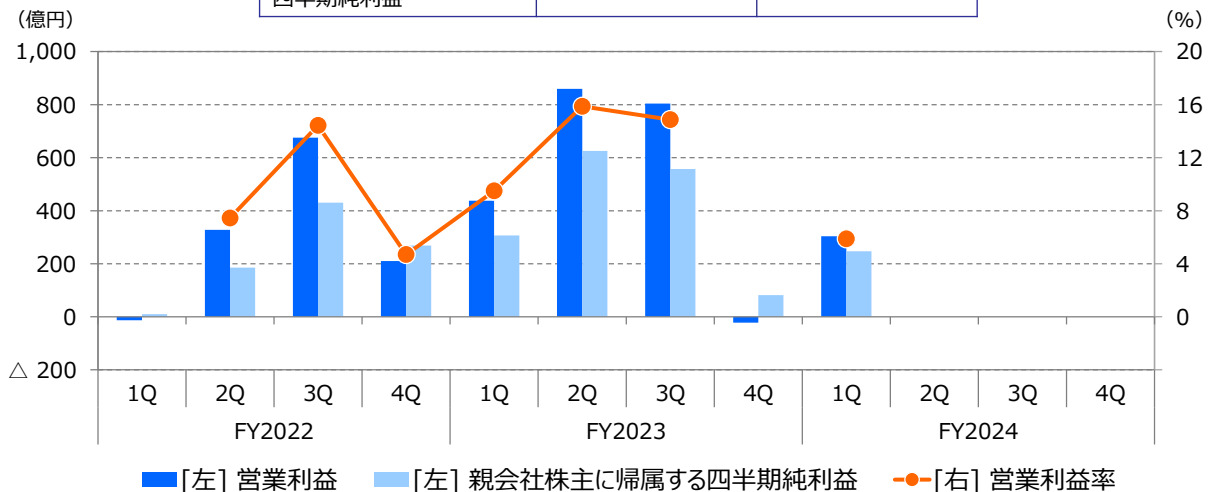
1. 2024年度 第1四半期決算

業績ハイライト		ノニア事業	
当年度と前年度各四半期の業績比較	P. 3	航空事業以外のセグメント	P. 29
事業別のポイント	P. 4		
連結決算概要			
経営成績	P. 5		
財政状態	P. 6		
キャッシュフロー	P. 7		
セグメント別実績	P. 8		
航空事業			
収入・費用	P. 9		
営業利益 増減要因	P. 10		
ANA国際旅客	P. 11-14		
ANA国内旅客	P. 15-16		
ANA国際貨物	P. 17-19		
ANA国内貨物	P. 20		
Peach Aviation	P. 21-22		
AirJapan	P. 23		
ANA国際線 方面別実績（構成比）	P. 25-26		
燃油・為替ヘッジの進捗状況（ANA）	P. 27		
航空機数	P. 28		

当年度と前年度各四半期の業績比較

旅客・貨物ともに需要回復が継続、売上高は第1四半期として過去最高を更新
営業利益は前年対比で減益も、年度計画に対して順調に進捗

【2024年度（連結）】	第1四半期	前年差
売上高	5,167億円	+ 557億円
営業利益	303億円	△ 134億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	247億円	△ 59億円






©ANAHD2024

3

- ① 業績ハイライトです。
- ② 当第1四半期の売上高は、旅客、貨物ともに需要回復が継続したことなどにより、第1四半期として過去最高を更新しました。
- ③ 営業利益は303億円となり、前年から減益となりましたが、年度計画に対して順調に進捗しています。
- ④ 4ページをご覧ください。

事業別のポイント

	第1四半期の概況	収入前年比(差)	主な指標
			
国際旅客	1) 旺盛な訪日客や日本発の業務渡航需要を着実に獲得 2) 円安の影響も寄与し、高いイールド水準を維持	+13% (+222億円)	イールド(前年比) +3%
国内旅客	1) 前年セールスの裏年も、レジャー需要を中心に旅客数を拡大 2) 3月末発券分から一部運賃の値上げを実施	+6% (+90億円)	旅客数(前年比) +1%
国際貨物	1) アジア・中国発の三国間貨物を積極的に取り込み 2) 中国発Eコマース需要が好調で、北米向け単価が向上	+13% (+49億円)	単価(前年比) +11%
	1) 好調な台湾線・韓国線を中心に、国際線の売上を拡大	+11% (+29億円)	単価(前年比) +8%
	1) 4月に2号機目を導入し、成田=シンガポール線を開設	19億円 (実績)	L/F(実績) 52%

©ANAHD2024

4

- ① 当第1四半期における事業別のポイントについてご説明します。
- ② **ANA国際旅客**は、旺盛な訪日客や日本発の業務渡航需要を取り込んだことに加えて、イールドが前年から3パーセント向上した結果、収入は前年から13パーセント増加しました。
- ③ **ANA国内旅客**では、昨年実施した70周年セールの裏年影響があった中でも、レジャー需要を着実に取り込み、前年から旅客数を拡大しました。また、一部の運賃を値上げしたことも寄与し、収入は前年から6パーセント増加しました。
- ④ **ANA国際貨物**は、アジア・中国発の三国間貨物を積極的に取り込みました。中でも中国発のEコマース需要が好調で、北米向けの単価が向上したことなどにより、収入は前年から13パーセント増加しました。
- ⑤ **Peach**は、台湾線や韓国線を中心に旺盛な訪日客を取り込み、収入は前年から11パーセント増加しました。
- ⑥ **AirJapan**は、4月下旬から2号機目を導入し、バンコク線、ソウル線に続く3路線目として、成田=シンガポール線を開設しました。座席利用率は52パーセントと振るいませんでしたが、運航便の安定化に取り組んでおり、夏場以降の利用率向上に向けて、販売を強化しています。
- ⑦ 続きまして、5ページをご覧ください。

経営成績

(億円)	FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年差
売上高	4,610	5,167	+ 557
営業費用	4,172	4,864	+ 691
営業利益	437	303	△ 134
営業利益率 (%)	9.5	5.9	△ 3.6pt
営業外損益	△ 5	64	+ 69
経常利益	432	368	△ 64
特別損益	-	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	306	247	△ 59
四半期純利益	309	246	△ 62
その他包括利益	276	243	△ 32
包括利益	586	490	△ 95

©ANAHD2024

5

- ① 経営成績の概要です。
- ② **売上高**は、前年から557億円増加し、5,167億円、**営業費用**は、691億円増加の、4,864億円となりました。
- ③ これらの結果、**営業利益**は303億円、**経常利益**は368億円、**親会社株主に帰属する四半期純利益**は247億円となりました。
- ④ 6ページをご覧ください。

財政状態

(億円)	FY2023 期末	FY2024 第1四半期末	前年度 期末差
総資産	35,695	36,283	+ 588
自己資本	10,445	10,699	+ 254
自己資本比率 (%)	29.3	29.5	+ 0.2pt
有利子負債残高	14,840	14,501	△ 338
D/ELレシオ (倍)	1.4	1.4	△ 0.1
手元流動性資金 *1	12,578	13,034	+ 456
純有利子負債残高 *2	2,262	1,467	△ 794
ネットD/ELレシオ (倍) *3	0.2	0.1	△ 0.1

*1 手元流動性資金 = 現金及び預金 + 有価証券

*2 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - 手元流動性資金

*3 ネットD/ELレシオ = 純有利子負債 ÷ 自己資本

- ① 財政状態です。
- ② 総資産は3兆6,283億円、自己資本は1兆699億円となり、自己資本比率は29.5パーセントとなりました。
- ③ 当四半期末における手元流動性資金は、1兆3,034億円となったことから、純有利子負債をベースとした、ネットデット・エクイティ・レシオは、0.1倍となりました。
- ④ 7ページをご覧ください。

キャッシュフロー

(億円)	FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年差
営業キャッシュフロー	1,394	1,093	△ 301
投資キャッシュフロー	△ 692	△ 1,984	△ 1,291
財務キャッシュフロー	△ 432	△ 578	△ 145
現金及び現金同等物の増減額	298	△ 1,430	△ 1,728
現金及び現金同等物の期首残高	11,134	10,025	} △ 1,430
現金及び現金同等物の期末残高	11,433	8,595	
減価償却費	353	364	+ 11
設備投資額（固定資産のみ）	435	248	△ 186
実質フリーキャッシュフロー （3ヶ月超の譲渡性預金等を除く）	1,103	994	△ 109
EBITDA（営業利益＋減価償却費）	791	668	△ 123
EBITDAマージン（%）	17.2	12.9	△ 4.2pt

©ANAHD2024

7

- ① キャッシュフローです。
- ② 営業キャッシュフローは、1,093億円の収入、
投資キャッシュフローは、1,984億円の支出、
財務キャッシュフローは、578億円の支出となりました。
- ③ また、実質フリーキャッシュフローは、994億円の収入となりました。
- ④ 8ページをご覧ください。

セグメント別実績

(億円)		FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年差
売上高	航空事業	4,185	4,695	+ 510
	航空関連事業	675	750	+ 75
	旅行事業	177	166	△ 10
	商社事業	275	318	+ 42
	その他	90	103	+ 12
	調整額	△ 793	△ 867	△ 73
	合計（連結）	4,610	5,167	+ 557
営業利益	航空事業	423	331	△ 92
	航空関連事業	31	△ 0	△ 32
	旅行事業	1	△ 7	△ 8
	商社事業	11	13	+ 1
	その他	0	2	+ 2
	調整額	△ 31	△ 35	△ 4
	合計（連結）	437	303	△134

©ANAHD2024

8

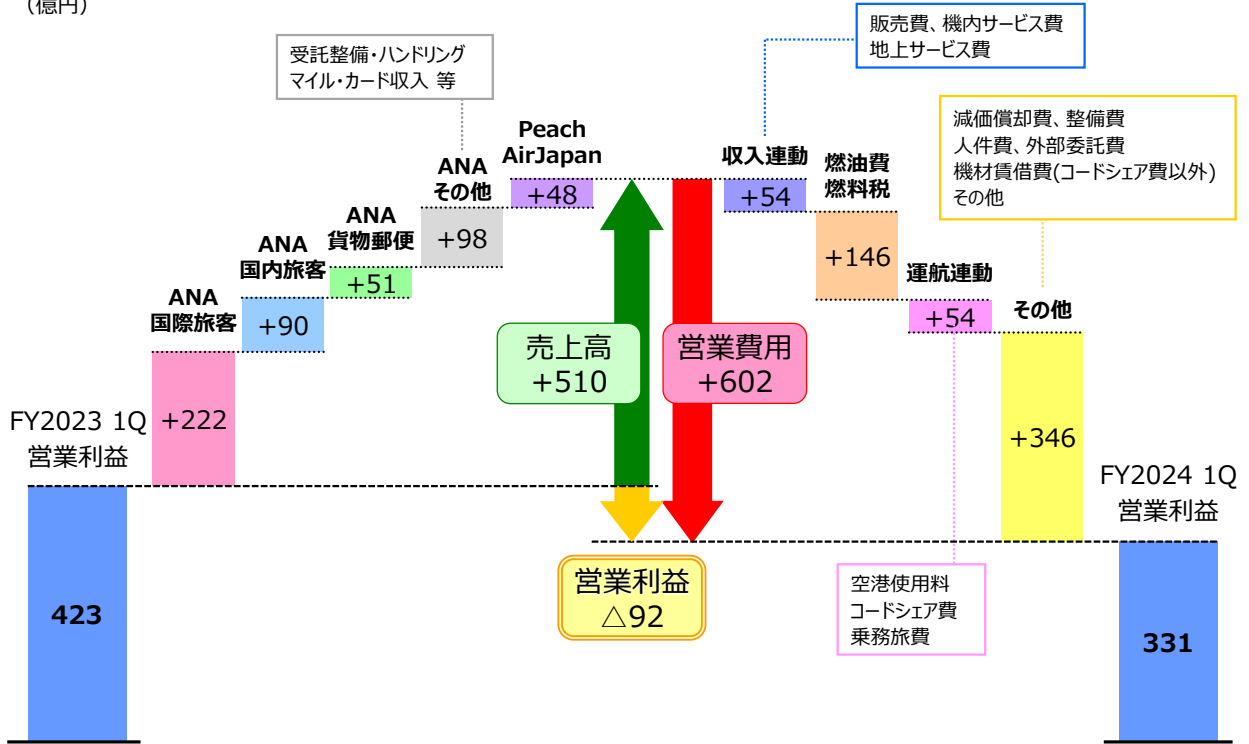
- ① セグメント別の実績です。
- ② 航空関連事業では、空港ハンドリングなどの受託が増えたことで増収となりましたが、人件費の増加などにより減益となりました。
- ③ 旅行事業では、昨年実施された全国旅行支援の裏年影響などにより、減収減益となりました。
- ④ 商社事業は、空港リテール事業の回復が継続したことなどにより、増収増益となりました。
- ⑤ 10ページをご覧ください。

収入・費用

(億円)		FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年差
売上高	ANA 国際旅客	1,673	1,895	+ 222
	ANA 国内旅客	1,425	1,516	+ 90
	ANA 貨物郵便	453	504	+ 51
	ANA その他	355	453	+ 98
	Peach・AirJapan	277	325	+ 48
	合計	4,185	4,695	+ 510
営業費用	燃油費・燃料税	861	1,008	+ 146
	空港使用料	197	249	+ 51
	航空機材賃借費	360	358	△ 2
	減価償却費	340	350	+ 9
	整備部品・外注費	391	545	+ 153
	人件費	465	533	+ 68
	販売費	129	150	+ 20
	外部委託費	596	672	+ 75
	その他	419	496	+ 77
	合計	3,761	4,364	+ 602
営業利益	営業利益	423	331	△ 92
	EBITDA (営業利益+減価償却費)	764	682	△ 82
	EBITDAマージン (%)	18.3	14.5	△ 3.7pt

営業利益 増減要因

(億円)



©ANAHD2024

10

- ① 航空事業における、営業利益の前年比較です。
- ② **売上高**は、旅客・貨物ともに需要が堅調に回復し、全体で510億円の増加となりました。
- ③ **営業費用**は、生産量連動の費用に加えて、整備費、人件費の増加や為替の円安影響などにより、前年から602億円増加しました。
- ④ これらの結果、営業利益は92億円減少し、331億円となりました。
- ⑤ 12ページをご覧ください。

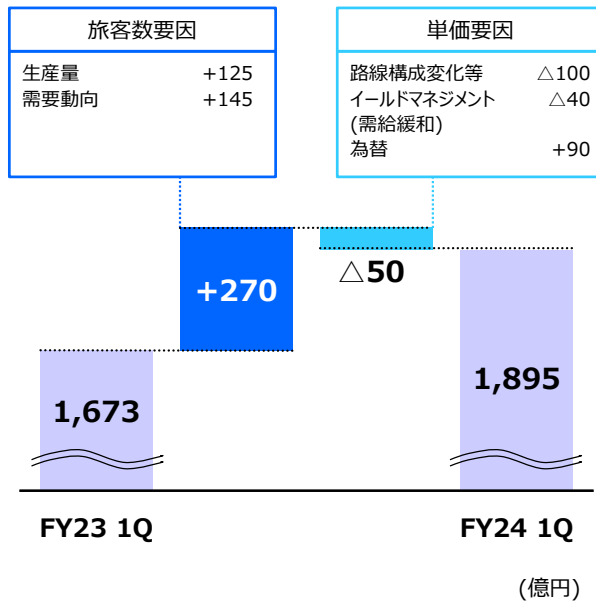
ANA国際旅客

	FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年比(%)
座席キロ (百万)	12,556	13,853	+ 10.3
旅客キロ (百万)	9,698	10,697	+ 10.3
旅客数 (千人)	1,623	1,886	+ 16.2
座席利用率 (%)	77.2	77.2	△0.0pt*1
旅客収入 (億円)	1,673	1,895	+ 13.3
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キロ)	13.3	13.7	+ 2.7
イールド (円) (旅客収入/旅客キロ)	17.3	17.7	+ 2.7
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	103,058	100,497	△ 2.5

*1 座席利用率のみ前年差

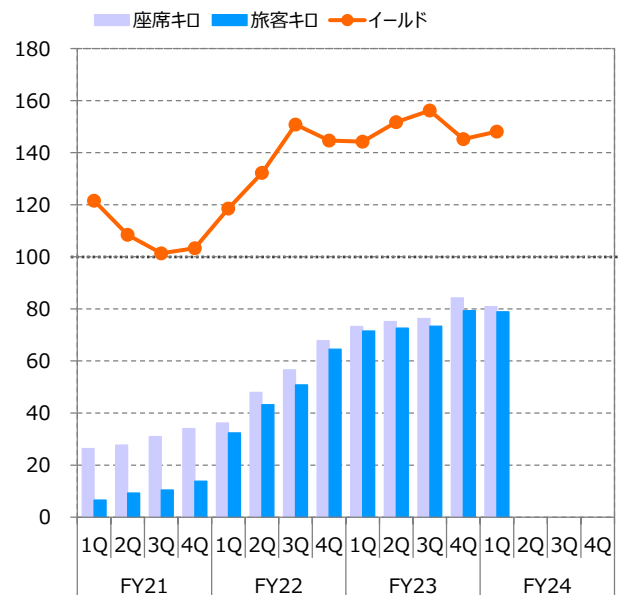
ANA国際旅客（事業動向）

第1四半期 収入増減要因（前年差）



四半期別 実績推移

指数：コロナ前（2019年1~12月）各四半期実績=100



* 2019年の実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

©ANAHD2024

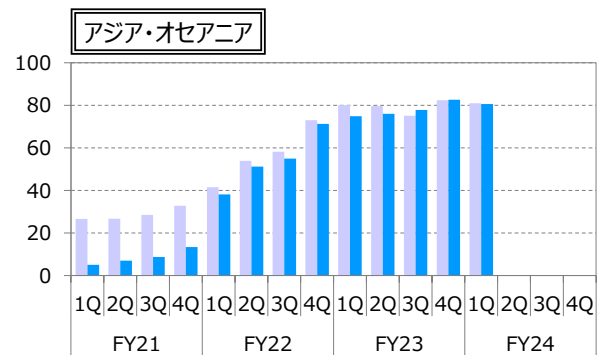
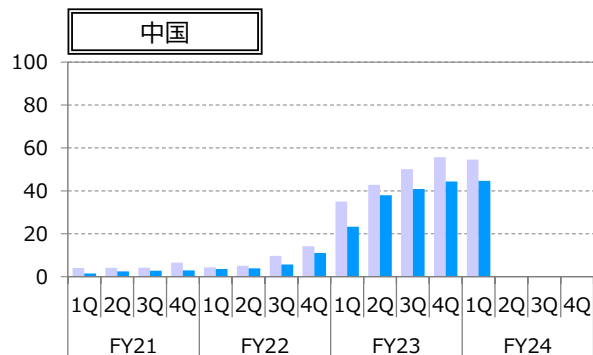
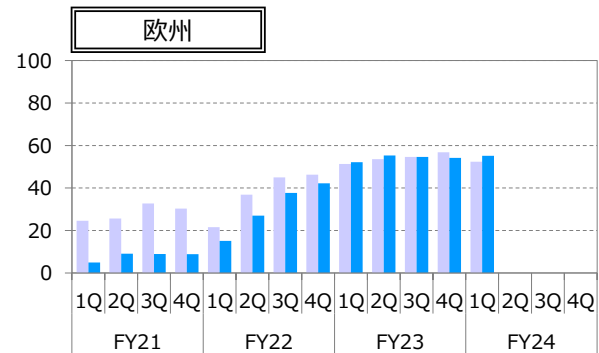
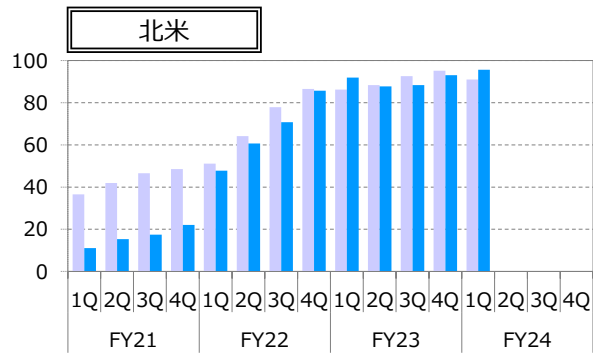
12

- ① ANA国際旅客の状況です。
左側に収入前年差における増減要因の分解をお示ししています。
- ② 当第1四半期は、海外発と日本発双方の需要を取り込んだことで、
旅客数要因で270億円の増収となりました。
- ③ 単価要因では、円安による増収効果があった一方で、
中国線の構成比拡大による路線ミックスの影響などにより、50億円の減収となりました。
- ④ 13ページをご覧ください。

ANA国際旅客（方面別 座席キロ・旅客キロ推移）

指数：コロナ前（2019年1~12月）各四半期実績=100

■：座席キロ ■：旅客キロ



©ANAHD2024

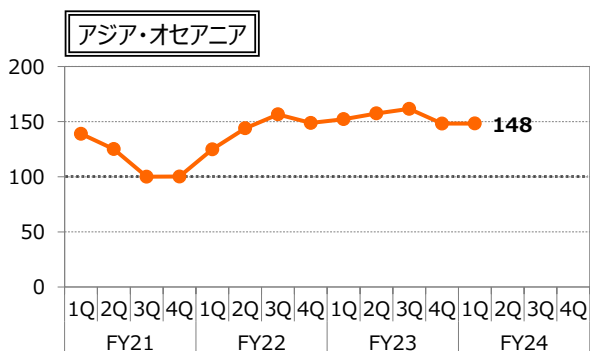
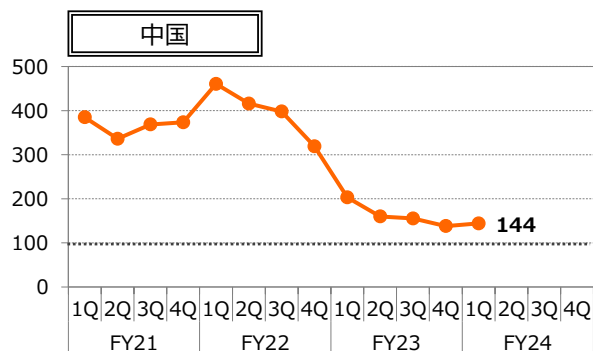
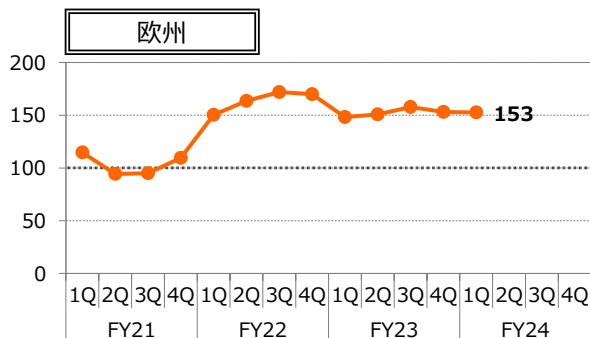
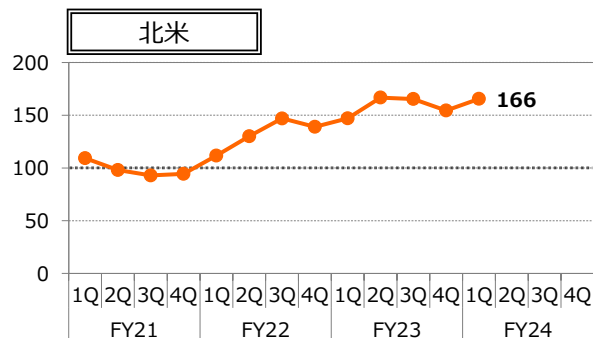
* 2019年の実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

13

- ① 方面別の座席キロと旅客キロのコロナ前との比較です。
- ② 北米線は、海外エアラインを含む総供給量がすでにコロナ前を超えていますが、好調な訪日客や日本発の業務渡航需要を取り込み、8割を超える座席利用率となりました。
- ③ 欧州線も堅調な需要動向が続いています。旅客キロのコロナ前比は5割強ですが、7月以降に順次生産量の拡大を予定しており、今後さらなる需要の獲得に努めていきます。
- ④ 中国線は、増便や機材の大型化で生産量を拡大しながら、回復基調が続く訪日需要を取り込みました。
- ⑤ アジア・オセアニア線では、旺盛な訪日需要や日本発需要の高まりに伴い、二国間需要の比率が拡大しています。
- ⑥ 14ページをご覧ください。

ANA国際旅客（方面別 イールド推移）

指数：コロナ前（2019年1~12月）各四半期実績=100



* 2019年の実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

©ANAHD2024

14

- ① こちらのスライドは、方面別のイールド推移です。
- ② 当第1四半期は、円安の影響などもあり、全てのエリアで引き続き高いイールドを維持しています。
- ③ とりわけ北米線は、海外発の値上げや、二国間流動の構成比を高めたことなどにより、コロナ前の1.7倍と、高い水準が続いています。
- ④ 2024年度は、引き続き需給バランスを見極めながら、柔軟なイールドマネジメントを実行していきます。
- ⑤ 続いて16ページをご覧ください。

ANA国内旅客

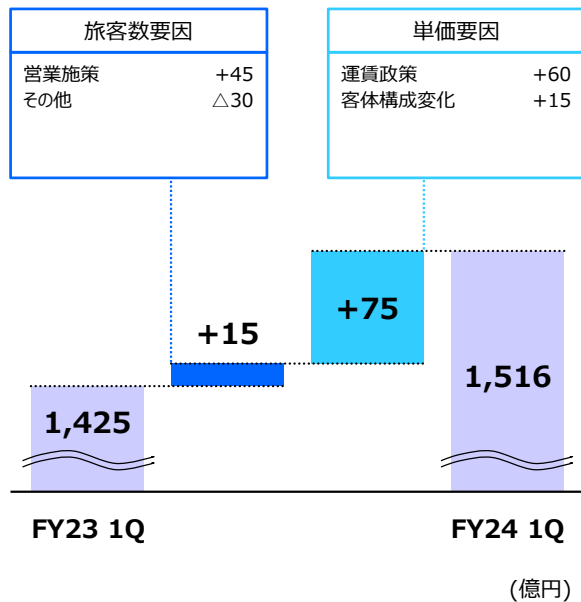
	FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年比(%)
座席キロ (百万) *1	11,376	11,232	△ 1.3
旅客キロ (百万) *1	7,632	7,729	+ 1.3
旅客数 (千人)	9,672	9,780	+ 1.1
座席利用率 (%) *1	67.1	68.8	+1.7pt*2
旅客収入 (億円)	1,425	1,516	+ 6.3
ユニットレベニュー (円) *1 (旅客収入/座席キロ)	12.5	13.5	+ 7.7
イールド (円) *1 (旅客収入/旅客キロ)	18.7	19.6	+ 5.0
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	14,740	15,502	+ 5.2

*1 当年度より国内線の区間距離の定義を大圏距離に変更 (前年実績にも変更を反映)

*2 座席利用率のみ前年差

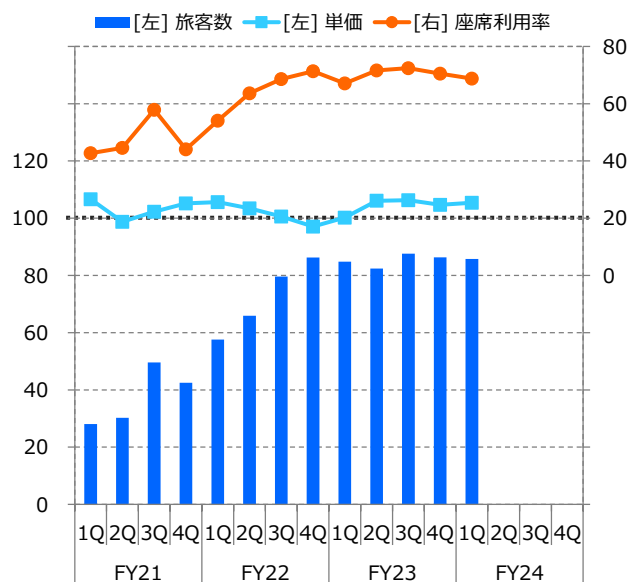
ANA国内旅客（事業動向）

第1四半期 収入増減要因（前年差）



四半期別 実績推移

[左] 指数（コロナ前（2019年1~12月）各四半期実績=100）
 [右] 実績（%）



* 2019年の実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

* 座席利用率は区間距離の定義を大圏距離に置き換えて算定

©ANAHD2024

16

- ① ANA国内旅客の状況です。
左の収入増減要因のグラフをご覧ください。
- ② 旅客数要因では、PWエンジンの点検に伴うエアバス機の非稼働の影響がありましたが、特定便に限定したセールスの展開などにより、好調なレジャー需要を着実に取り込んだことで、前年から15億円の増収となりました。
- ③ 単価要因は、前年に実施した70周年セールの裏年影響や、3月末からの値上げの効果などにより、75億円の増収となりました。
- ④ 19ページをご覧ください。

ANA国際貨物（ベリー+フレighter）

	FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	1,580	1,578	△ 0.1
有償貨物トンキロ（百万）	864	890	+ 3.1
貨物輸送重量（千トン）	171	174	+ 1.7
貨物重量利用率（%）	54.7	56.4	+1.7pt*
貨物収入（億円）	381	431	+ 13.1
ユニットレバニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	24.1	27.3	+ 13.2
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	44.2	48.4	+ 9.7
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	222	247	+ 11.2

* 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国際貨物（フレイターのみ）

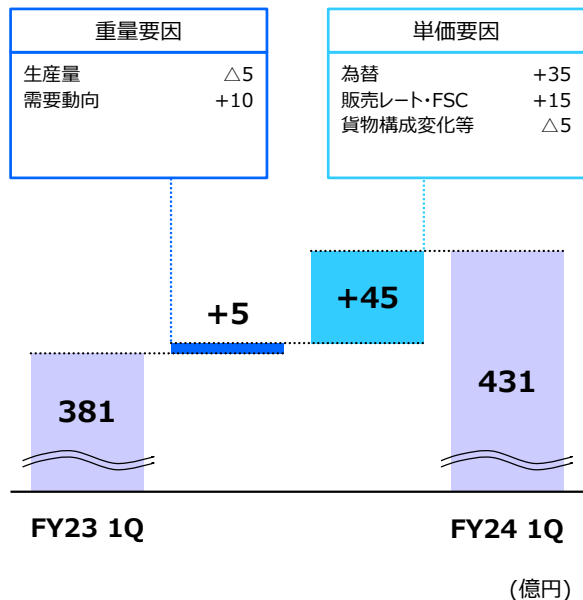
本表のデータは、P.17記載実績の内数

	FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	466	429	△ 7.9
有償貨物トンキロ（百万）	296	283	△ 4.2
貨物輸送重量（千トン）	75	69	△ 7.8
貨物重量利用率（%）	63.4	66.0	+2.5pt*
貨物収入（億円）	153	162	+ 5.3
ユニットレバニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	32.9	37.7	+ 14.4
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	51.9	57.1	+ 10.0
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	203	232	+ 14.2

* 貨物重量利用率のみ前年差

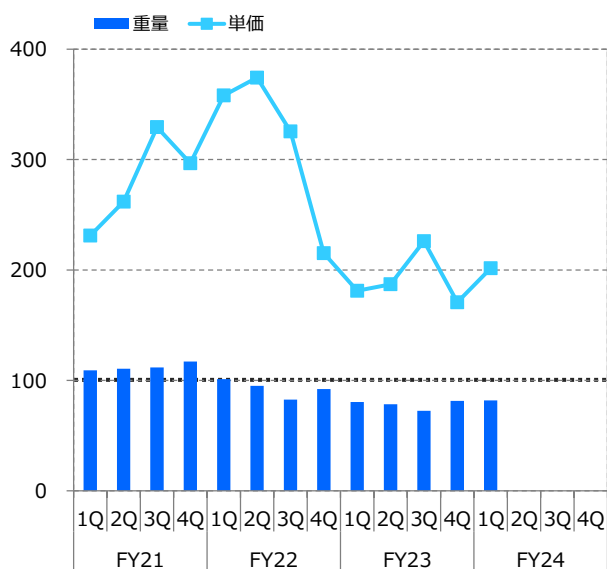
ANA国際貨物（事業動向）

第1四半期 収入増減要因（前年差）



四半期別 実績推移

指数：コロナ前（2019年1~12月）各四半期実績=100



©ANAHD2024

19

- ① ANA国際貨物の状況です。
- ② マーケット全体の日本発着貨物は、前年から回復基調にあるものの、依然として低位に推移したことから、当第1四半期は、より荷動きの多い三国間貨物を積極的に取り込み、重量要因で5億円の増収となりました。
- ③ 単価要因では、為替の円安効果に加えて、中国発のEコマース需要が好調に推移したことなどから、北米線の単価が向上し、前年から45億円の増収となりました。
- ④ 22ページをご覧ください。

ANA国内貨物

	FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ (百万) *1	356	376	+ 5.6
有償貨物トンキロ (百万) *1	58	63	+ 8.4
貨物輸送重量 (千トン)	58	64	+ 10.6
貨物重量利用率 (%) *1	16.3	16.8	+0.4pt*2
貨物収入 (億円)	52	54	+ 2.9
ユニットレベニュー (円) *1 (貨物収入/有効貨物トンキロ)	14.8	14.5	△ 2.6
イールド (円) *1 (貨物収入/有償貨物トンキロ)	90.9	86.2	△ 5.1
重量単価 (円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	91	85	△ 7.0

*1 当年度より国内線の区間距離の定義を大圏距離に変更 (前年実績にも変更を反映)

*2 貨物重量利用率のみ前年差

Peach Aviation

(国内線・国際線合計)	FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年比(%)
座席キロ (百万) *1	2,856	3,011	+ 5.4
旅客キロ (百万) *1	2,397	2,557	+ 6.7
旅客数 (千人)	2,158	2,210	+ 2.4
座席利用率 (%) *1	83.9	84.9	+1.0pt*2
売上高 (億円) *3	277	306	+ 10.6
ユニットレベニュー (円) *1 (売上高/座席キロ)	9.7	10.2	+ 4.9
イールド (円) *1 (売上高/旅客キロ)	11.6	12.0	+ 3.6
単価 (円) (売上高/旅客数)	12,844	13,866	+ 8.0

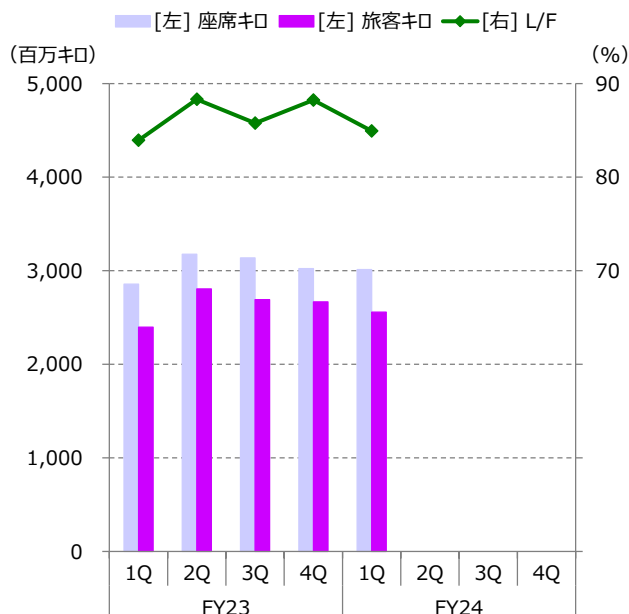
*1 当年度より国内線の区間距離の定義を大圏距離に変更 (前年実績にも変更を反映)

*2 座席利用率のみ前年差

*3 売上高に付帯収入を含む

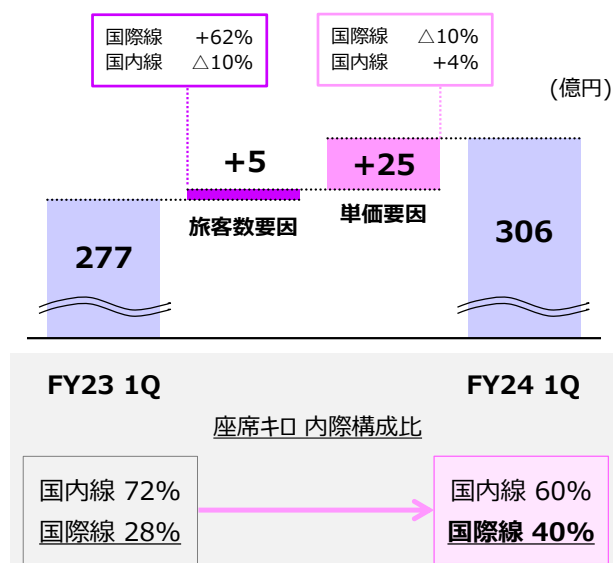
Peach Aviation (事業動向)

四半期別 実績推移 (内際計)



第1四半期の概況

国際線のリソース配分を高め収入を最大化



* 当年度より国内線の区間距離の定義を大圏距離に変更 (前年実績にも変更を反映)

©ANAHD2024

22

① Peachの状況です。

② 右側に当第1四半期の概況をお示しています。

国際線のリソース配分を高め、旺盛な訪日需要を取り込んだことで、
旅客数要因で5億円の増収となりました。

単価要因では、競合他社の供給増加に伴い、国際線の単価は前年から低下しましたが、
国際線の構成比を高めたことで全体の単価は向上し、25億円の増収となりました。

③ 以上が第1四半期の決算概要です。

第2四半期も収入・費用の両面でマネジメントを強化しながら、
利益計画の確実な達成に向けて努めてまいります。

④ 私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

AirJapan

	FY2024 第1四半期
座席キロ (百万)	491
旅客キロ (百万)	254
旅客数 (千人)	71
座席利用率 (%)	51.9
売上高 (億円) *1	19
ユニットレベニュー (円) (売上高/座席キロ)	3.9
イールド (円) (売上高/旅客キロ)	7.6
単価 (円) (売上高/旅客数)	26,845

*1 売上高に付帯収入を含む

Intentionally Left Blank

ANA国際旅客 方面別実績（構成比）

* CY19は新収益認識基準に置き換えて算定

		FY2024 1Q構成比	前年同期差	CY19同期差
旅客収入	北米	41.7	+ 1.4	+ 10.9
	欧州	14.9	△ 0.6	△ 5.8
	中国	7.8	+ 1.3	△ 6.3
	アジア・オセアニア	30.2	△ 2.4	+ 0.7
	ハワイ	5.4	+ 0.3	+ 0.5
座席キロ	北米	36.6	△ 1.7	+ 4.1
	欧州	11.4	△ 0.9	△ 6.2
	中国	6.5	+ 1.9	△ 3.1
	アジア・オセアニア	35.2	△ 3.2	+ 0.0
	ハワイ	10.3	+ 3.9	+ 5.2
旅客キロ	北米	40.1	△ 2.4	+ 7.0
	欧州	12.3	△ 0.5	△ 5.3
	中国	5.5	+ 2.3	△ 4.2
	アジア・オセアニア	34.5	△ 0.9	+ 0.7
	ハワイ	7.6	+ 1.4	+ 1.7

ANA国際貨物 方面別実績（構成比）

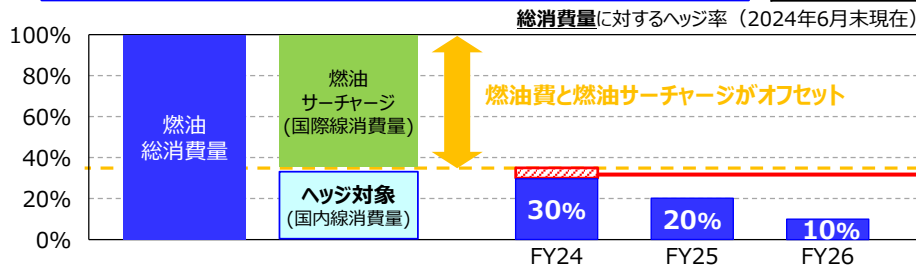
		FY2024 1Q構成比	前年同期差	CY19同期差
貨物収入	北米（ハワイを含む）	50.0	+ 11.4	+ 13.3
	欧州	7.7	△ 2.0	△ 7.2
	中国	21.5	△ 2.5	△ 0.1
	アジア・オセアニア	19.2	△ 6.9	△ 4.2
	その他	1.6	△ 0.1	△ 1.8
有効貨物 トンキロ	北米（ハワイを含む）	50.5	+ 4.7	+ 6.3
	欧州	6.3	△ 0.1	△ 6.5
	中国	14.7	+ 0.4	+ 0.7
	アジア・オセアニア	28.0	△ 5.0	+ 0.9
	その他	0.4	+ 0.0	△ 1.4
有償貨物 トンキロ	北米（ハワイを含む）	53.1	+ 2.8	+ 9.3
	欧州	8.4	△ 1.6	△ 8.5
	中国	13.9	△ 0.2	+ 1.2
	アジア・オセアニア	24.0	△ 0.8	△ 0.7
	その他	0.7	△ 0.0	△ 1.3

燃油・為替ヘッジの進捗状況（ANA）

1. 燃油ヘッジ 基本方針

- 国内線消費量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）
- 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外（燃油サーチャージで対応）

(US\$/bbl)	FY24 1Q実績	FY24前提
ドバイ原油	85.3	80
シンガポールクロシン	98.5	100

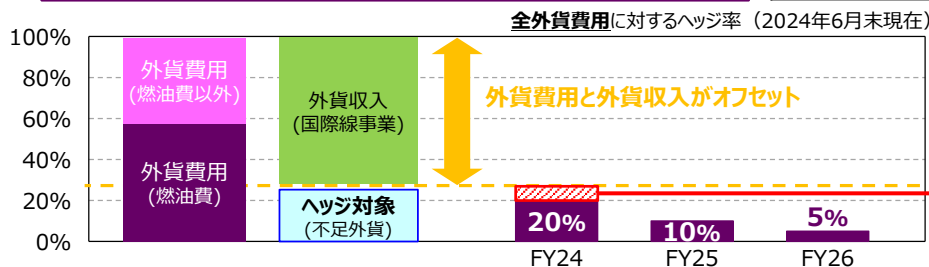


2024年度 収支感応度*
(1US\$/bblの変動)
±約2億円/年
(ヘッジ考慮後)

2. 為替ヘッジ 基本方針

- 不足する外貨量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）

(円/US\$)	FY24 1Q実績	FY24前提
ドル円レート	155.8	140



2024年度 収支感応度*
(1円/US\$の変動)
±約3億円/年
(ヘッジ考慮後)

航空機数

	FY2023 期末	FY2024 第1四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
Airbus A380-800	3	3	-	3	-
Boeing 777-300/-300ER	18	18	-	9	9
Boeing 777-200/-200ER	10	10	-	10	-
Boeing 777-F	2	2	-	2	-
Boeing 787-10	5	7	+ 2	6	1
Boeing 787-9	43	43	-	37	6
Boeing 787-8	35	34	△ 1	29	5
Boeing 767-300/-300ER	15	15	-	15	-
Boeing 767-300F/-300BCF	9	9	-	6	3
Airbus A321-200neo	22	22	-	-	22
Airbus A321-200	4	4	-	-	4
Airbus A320-200neo	11	11	-	11	-
Boeing 737-800	39	39	-	26	13
De Havilland Canada DASH 8-400	24	24	-	24	-
ANA 計	240	241	+ 1	178	63
Airbus A321-200neoLR	3	3	-	-	3
Airbus A320-200neo	15	17	+ 2	-	17
Airbus A320-200	19	17	△ 2	-	17
Peach Aviation 計	37	37	-	-	37
Boeing 787-8	1	2	+ 1	2	-
AirJapan 計	1	2	+ 1	2	-
グループ計	278	280	+ 2	180	100

航空事業以外のセグメント

(億円)	航空関連事業			旅行事業		
	FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年差	FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年差
売上高	675	750	+ 75	177	166	△ 10
営業利益	31	△ 0	△ 32	1	△ 7	△ 8
減価償却費	9	9	△ 0	0	1	+ 1
EBITDA (営業利益+減価償却費)	41	8	△ 32	2	△ 5	△ 7
EBITDAマージン(%)	6.1	1.2	△ 4.9pt	1.4	-	-

	商社事業			その他		
	FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年差	FY2023 第1四半期	FY2024 第1四半期	前年差
売上高	275	318	+ 42	90	103	+ 12
営業利益	11	13	+ 1	0	2	+ 2
減価償却費	2	2	+ 0	0	0	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	14	15	+ 1	0	2	+ 2
EBITDAマージン(%)	5.1	4.9	△ 0.2pt	0.4	2.7	+ 2.3pt

(Memo)

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
 私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます
 私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ワクワクで満たされる世界を

私たちは、空からはじまる多様なつながりを創り、
 社員・お客様・社会の可能性を広げていきます。

グループ行動指針
(ANA's Way)

私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、感染症の継続・拡大、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 ➡ I R 資料室 ➡ 決算説明会資料

ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部

Eメール : ir@anahd.co.jp